（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月 24 日

県立横浜修悠館高等学校長

# 令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

| | 視点 | ４年間の目標（令和２年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価（　月　日実施） | 総合評価（　月　日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | ・生徒が高校生活の中で自らを伸長させることができるよう、新教育課程編成や授業改善に取り組む。<br><br>・教員間の協力による学習支援体制を確保し、個に応じた学習指導の充実を図る。 | ○単位修得率を高めるため、生徒自らが、修悠館ﾏｲﾍﾟｰｼﾞ等多くの支援を活用できる体制となるよう学務ｸﾞﾙｰﾌﾟなどが中心となり、学校全体で取り組む。<br>○今年度、新教育課程に沿った新ﾚﾎﾟｰﾄが完成する。新教育課程完全移行に伴って、ｺﾝﾃﾝﾂやｽｸｰﾘﾝｸﾞの評価基準を整理し、教科内及び学校全体で研究する。 | (1)活動生が修悠館ﾏｲﾍﾟｰｼﾞの IT ｺﾝﾃﾝﾂや学習進度表を利活用し、自ら学習計画を立て、積極的に活動し、単位修得できるよう学習支援体制を充実させる。<br><br>(2)ﾚﾎﾟｰﾄの内容、添削・返却、順次提出できる状況設定、頻繁な連絡体制、支援の充実、質の高いｽｸｰﾘﾝｸﾞ展開など教科内の工夫を定期的に検討していく。また、ﾚﾎﾟｰﾄ提出ﾙｰﾙについて再検証する。 | (1)全教科・科目で作成した動画ｺﾝﾃﾝﾂ等学習ｺﾝﾃﾝﾂについて充足率による検証を行い、ｽｸｰﾘﾝｸﾞ不参加でも確実にﾚﾎﾟｰﾄを完成させることができるように、学習支援体制を充足させることができたか。<br>(2)ｽｸｰﾘﾝｸﾞでの端末活用による主体的・対話的で深い学びを実践し、生徒の表現力の向上に努めることを教科内及び学校全体で研究し、検証していくことができたか。また、ﾚﾎﾟｰﾄ提出ﾙｰﾙの再検証ができたか。 | | | | | |
| 2 | （幼児・児童・）<br>生徒指導・支援 | ・多様化する生徒の実態を踏まえ、すべての生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を維持する。<br><br>・生徒一人ひとりに応じた支援体制の個別最適化を図る。 | ○生徒指導規定やいじめ防止ﾏﾆｭｱﾙについて全職員に周知徹底し共通理解に努める。<br><br>○全生徒に学校のﾙｰﾙを周知し安心して学校生活を送ることができる状況を維持する。社会状況の変化等を踏まえ生徒指導規程の検証を行う。<br><br>○支援を要する生徒のための、職員間における情報共有や相談体制の構築を、生徒の実態に合わせて効果的に行っていく。 | (1)いじめ未然防止のため回収率100％を目指す。問題発生時、職員で情報を共有し対応していく。<br>(2)複数手段を用いて学校のﾙｰﾙを周知し、いじめや問題行動等の未然防止に努める。生徒指導規程の背景や理由を理解し、本当に必要なものか検証を行う。<br>(3)DBのﾏﾆｭｱﾙやｼｽﾃﾑを、職員の声をもとに改善し、生徒情報が最新となるよう職員全体に呼びかけていく。<br>(4)予約でいっぱいの SC・SSW の相談を、新規の生徒や突発的な相談にも対応できるように工夫していく。またｹｰｽ会議の流れをﾏﾆｭｱﾙ化し迅速な対応ができる体制を構築する。 | (1)いじめ未然防止のため、いじめｱﾝｹｰﾄの回収率 100%が達成できたか。問題発生時に迅速かつ的確な対応できたか。<br>(2)学校ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、通信紙・掲示物・ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｼｽﾃﾑ、校内放送やﾏｲﾍﾟｰｼﾞなどを通して学校のﾙｰﾙを周知し問題に対応できたか。生徒指導規程については検証を行うことができたか。<br>(3)DB ﾏﾆｭｱﾙやｼｽﾃﾑの定期的なﾒﾝﾃﾅﾝｽができたか。生徒情報が最新のものとなっていたか。<br><br>(4)SC や SSW への相談が必要な生徒に、必要に応じて相談を受けさせることができる体制となっているか。 | | | | | |

| | 視点 | ４年間の目標<br>（令和２年度策定） | １年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | 総合評価（　月　日実施） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | （　月　日実施） | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 3 | 進路指導・支援 | ・生徒が社会的、職業的自立に向けたキャリア形成を実現できる就労支援や進学支援の充実を図る。<br><br>・生徒個々に沿った多様な支援により、将来の就労や社会参加に向けた意欲の形成を図る。 | ○中地区ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの参加者を増やす。<br><br>○進学支援として、進学ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰの利用者やclassi の学習動画のｱｸｾｽ数を増やす。<br><br>○特別な支援が必要な生徒に対して、個別最適な学びと協同的な学びの一体化を工夫していく。 | (1)ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの参加者の体験談をｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｼｽﾃﾑ等で紹介し、職業体験の意義を感じてもらう。<br>(2)進学ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰについては生徒・職員に来校日を周知する。学習動画については、通信紙等で生徒に利用を促したり、進学ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰから生徒に案内する。<br><br>(3)特に通級指導教室受講生には、早い段階からｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等を行い、就労先を決めていくことができるよう、担任や生徒に呼びかける。<br><br>(4)小集団での通級指導教室において、個別最適な学びを提供するための工夫を柔軟に取り入れ、臆することなくﾁｬﾚﾝｼﾞしていく。 | (1)中地区のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟの参加者が昨年より増加したか。<br><br>(2)進学ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰや学習動画を利用する生徒が昨年度より増加したか。<br><br>(3)年度末に就労活動が集中する状態を改善することができたか。<br><br>(4)生徒それぞれに必要な支援を行うための工夫ができたか。そしてそれは、生徒の成長につながったか。 | | | | | |
| 4 | 地域等との協働 | 地域や近隣の小中学校などと連携の上、協働の体制を構築して、地域に貢献し、地域から信頼される学校づくりに努める。 | ○地域貢献活動や地域行事への参加の再開および拡充に向けた調整を続けるとともに、活動内容を校内外へ発信し、活動の活性化を図る。 | (1)地域行事に関する過去の実施計画・報告を確認する。活動機会の拡充に向け、外部との打合せを行う。<br>(2)ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｼｽﾃﾑやﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを活用した効果的・効率的な情報発信の仕組みを作る。 | (1)再開した地域行事に参加できたか。生徒の活動機会を拡充できたか。<br><br>(2)校内外へ向けて、校内の様子や生徒の活動の様子を継続的に情報発信できたか。 | | | | | |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | ・生徒が自分自身で様々な能力を伸長できるように、教職員の技能並びに生徒へのサポート力の向上を図る。<br>・学校を取り巻く教育環境の変化に対応し、すべての職員が課題に取り組み続ける学校文化を継承する。 | ○eｰﾗｰﾆﾝｸﾞｼｽﾃﾑ（修悠館ﾏｲﾍﾟｰｼﾞ）の更新により利便性が向上したため、さらなる内容の充実を図り生徒の学習環境の整備に努める。<br>○発災時即応体制の維持と生徒の意識向上に努める。 | (1)新教育課程 2 年目になり、新規科目の IT ｺﾝﾃﾝﾂの作成を中心にしながら、外部ｺﾝﾃﾝﾂの利用も促進していけるような学習ｻﾎﾟｰﾄを継続する。<br><br>(2)教職員全員が発災時に行動でき、生徒へ的確な指示を出せる体制を構築する。 | (1)新規科目のｺﾝﾃﾝﾂが揃っているか。<br>・新規科目のｱｸｾｽ数が既存の科目と比較してどの程度の数であったか。<br><br>(2)生徒の防災意識が向上したか。防災訓練時に生徒が円滑に行動できたか。 | | | | | |